事例No.	1991
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	佐賀県

事例区分	DX

タグ	・新たな政策手法の確立・活用 ・ICT ・AI

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

５G通信環境を利用し、先進技術を活用した実証実験等を実施

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

11 5G通信環境を利用し、先進技術を活用した実証実験等を実施【佐賀県】

事業の概要

○　佐賀県は、society5.0の到来に向け、最新テクノロジーを活用した地域課題の解決を目指し、実証実験に取り組んでいる。

○　令和2年度には、コロナ禍における医療現場での面会ロボットや消毒ロボットの活用、日本ハンドボールリーグ公式戦の5Gでの4K・8K映像配信、AIカメラの導入やスポーツデータの可視化等に取り組み、地域社会における広がりを見せている。

○　令和3年度には、久留米工業大学と連携し、行き先を告げるだけで目的地へ向かうことができる自動運転モビリティ(車いす)の実証事業・体験搭乗を行った。
　令和４年度は、吉野ヶ里歴史公園で実用化に向けたサービス・運用開発を行うとともに公道（歩道）での実証事業を計画。



【参考情報①】 人口：81.8万人
関連URL：https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00381490/index.html
（県HP）

【参考情報②】地方創生推進交付金（内閣府）とは
URL：
https://www.chisou.go.jp/sousei/about/kouhukin/index.html

もっと知りたい！　担当者にインタビュー


（総務省）取組の経緯等を教えてください。


先進技術を活用した社会課題解決のためには、トライ＆エラーが欠かせないことから、令和2年度に、専門スタッフを配置し、様々なテーマでの実証実験に取り組んでいます。（佐賀県）


導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？


内閣府の地方創生推進交付金（令和３年度から３年間）を活用しています。


実証事業ではどのような成果が生まれていますか。


例えば、自動運転モビリティ(車いす)では、技術の検証はもとより、お年寄りや家族連れなど幅広い層から、具体的なニーズを得ることできました。「これがあれば、おじいちゃんと一緒に公園に来ることができる。」といった声は印象的でした。


今後、どのように進める予定ですか？


自動運転については、まず施設内での本格導入を実現し、公道での実装へとつなげていきます。加えて、ドローン物流やMR(複合現実)の活用など、様々な技術の実証に積極的に取り組み、地域課題の解決を具体化していきます。

★担当：佐賀県政策部 政策チームデジタルイノベーション担当★

令和3年度事業費　11,853千円
（うち、地方創生推進交付金（内閣府）　5,744千円）